

地方都市視察報告書

オリンピック・パラリンピック・文化観光等特別委員会

1 実施日

平成28年10月31日（月）

2 視察地 長野県長野市

【市の概要】

(1) 面積 834.81 km²

(2) 人口・世帯数（平成28年10月1日現在）

人口 382,249人

世帯数 159,327世帯

(3) 長野市は、北アルプスに源を発する犀川の扇状地と千曲川の沖積地によって形成された肥沃な長野盆地に位置し、平安の昔から「三国一の霊場」善光寺の門前町として日本全国に親しまれてきた。

昭和41年10月、長野市、篠ノ井市、松代町、若穂町、川中島町、更北村、七二会村及び信更村の2市3町3か村の大合併により、面積404平方キロメートル、人口27万の都市となった。こうした都市の拡大・発展の中で平成8年9月に人口は36万を超え、平成9年4月1日には明治30年の市制施行以来100周年を迎えた。100周年記念事業として第18回オリンピック冬季競技大会（平成10年2月）、第7回パラリンピック冬季競技大会（平成10年3月）が開催された。

オリンピック等の開催により、長く市民の願いであった新幹線・高速道も実現し、市内の都市基盤整備も急速に進んだ。また、平成11年4月、政令指定都市に準じた権限を持つ中核市に移行したことにより、これまで以上に、市民に身近な行政をスピーディに処理できることになった。

平成17年1月に豊野町、戸隠村、鬼無里村及び大岡村を、平成22年1月には信州新町、中条村を編入合併し、新しい長野市がスタートした。明治30年市制施行当時の面積9平方キロメートル、人口3万足らずの小都市にすぎなかった長野市も、面積835平方キロメートル、人口39万弱の都市となった。

平成28年度を目標年次とする「第四次長野市総合計画」の前期基本計画の取組を踏まえ、市民と行政が協働し、「自分たちの地域は自分たちでつくる」という都市内分権の理念の下にまちづくりを進めることで、持続・発展する地域社会の実現を図ることを目標にした後期基本計画（平成24年度から平成28年度まで）の取り組みを進めている。

3 視察項目・内容

オリンピック開催の取り組み及びオリンピック開催後の状況について



4 視察参加者

【委員】

えのき 秀 隆副委員長、三 沢 ひで子委員、井下田 栄 一委員、
佐 藤 佳 一委員、 桑 原 羊 平委員、平 間 しのぶ委員、
志 田 雄一郎委員、 あざみ 民 栄委員、有馬 としろう委員、
宮 坂 俊 文委員、 雨 宮 武 彦委員

【随行】

議会事務局議事係 氏家あふゆ 唐澤一彰

5 視察結果・所感

長野市に於いてはオリンピック開催後の取り組み及びオリンピック開催後の状況について視察を行った。長野市の職員、又エムウェーブの指定管理者の方々に貴重なお話をしていただいた。2020年東京オリンピックパラリンピックに向けて参考となる質疑を多岐にわたり行った。以下視察を通じて印象に残った点や所感を箇条書きに記す。

- ① オリンピック後、6か所の施設を維持管理する事がいかに大変であるかを痛感した。ボブスレー会場を除く5か所においては、施設メンテナンスなどを施し、施設の長寿命化を図っている事が参考になった。又、開会式、閉会式等の会場を運動場や野球場として活用しているという点も参考になった。ただ、ボブスレー会場等に関しては、日本で最高の施設であると位置づけられているにもかかわらず、維持管理費が10年間で30億円以上も経費として掛かる点をお聞きし、維持管理の難しさの問題が浮き彫りになった。現在東京オリンピックパラリンピックに於いても、会場の問題が大きく報道されているが、しかるべきビジョンを持って取り組む事が大切であると感じた。
- ② オリンピック後、建物維持管理はもちろんハード面の工夫のみならずソフト面でしっかりと対処していくことの大切さを学んだ。
- ③ テロ対策、安心安全のテーマなども含め、オリンピック後にしっかりと資料を残せるように対応、工夫しなければならないと感じた。
- ④ 長野オリンピックの特徴として、ボランティアの活用が挙げられる。当時のボランティア登録者数は3万6千人という事。今回案内を担当された職員は当該オリンピックでボランティアとして活動され、そのまま長野市に就職されたという事で、改めて大会の持つ潜在力というものを感じた。ボランティアの育成などに関してもしっかりと取り組みを進めていく事が大切であると感じた。

6 主な質疑項目

- (1) オリンピックの開催の決定がインフラに及ぼした影響について
- (2) オリンピック開催当時に一校一國運動によって市民（生徒）は、どのような国際親善を行ったのかについて

- (3) 一校一国運動の成果や現状の課題等について
- (4) ながの夢応援基金の現状の積立金額及び活用状況について
- (5) エムウェーブをはじめオリンピック後の競技会場の活用状況について
- (6) 長野オリンピックは、36,000人もがボランティアとして大会を支えたことから、東京五輪でのボランティアの育成・支援体制へのアドバイスについて

7 その他

【共同視察者】

東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長 菊島 茂雄



(エムウェーブ内に設置された長野オリンピックで使用された表彰台)